

自主防犯活動のすすめ

「地域ぐるみで児童・生徒の安全を守る」



誘拐や通り魔、痴漢、交通事故など登下校中に児童・生徒が痛ましい事件に巻き込まれるケースが全国的に多発しています。

これらの事件をきっかけに、行方市において、平成16年から22年にかけて、地域の皆さんの協力により、各小学校区単位に見守り隊が相次いで結成されました。また、交通安全協会や交通安全母の会の皆さんによる立哨指導も随時行われています。

子どもたちが徒歩や自転車で利用する通学路は、木がうつそうとした民家のない薄暗い道や交通量が多いところ、大型車両が行き来する箇所など、さまざまです。

今回、各地域で行われている自主防犯活動の一部を紹介するとともに、警察や保護者の方のご意見を伺いながら、児童・生徒の通学時における安全確保について考えていきたいと思います。

行方市内における「こどもを守る110番の家」設置状況等

学校名	設置戸数	学校名	設置戸数
麻生小学校	138戸	玉造西小学校	10戸
麻生東小学校	65戸	現原小学校	57戸
津澄小学校	60戸	玉川小学校	22戸
要小学校	48戸	玉造小学校	34戸
武田小学校	159戸	手賀小学校	27戸
羽生小学校	20戸	合計	640戸

「こどもを守る110番の家と見守り隊

「こどもを守る110番の家」とは、ボランティアとしての活動であり、子どもたちが街で知らない人から「声かけや痴漢、つきまとい」などの被害を受けたときに、「安心して避難することができ、かつ、その後の警察



通学路を歩く登校班の児童と見守り隊の皆さん

などへの通報、保護をしてもらえる家（一般家庭・商店・企業等・車）をいいます。

行方市においては、現在、全小学校区にあわせて640戸の110番の家が設置されているほか、子どもたちの登下校時の安全を守るため、一部の小学校を除いて「見守り隊」が組織され、自動車にステッカーを貼ってパトロールしたり、防犯パトロールの帽子をかぶったりして、危険箇所立つなどの活動をしています。また、ご自身の健康維持も兼ねて子どもたちと一緒に歩く方も見受けられます。

「子どもを守る110番の家」に賛同いただいた方の建物の玄関先には、左下のイラストが描かれた看板が設置されています。犯罪等の被害に遭い、または遭いそうになって救助を求めてきた子ども等の保護をはじめ、事件・事故の発生を認知した時の110番通報、日常生活の中で、近所に子どもたちが被害に遭いそうな危険な箇所等を発見した場合の連絡など、児童・生徒の身の安全を確保するため、日々ご尽力をいただいています。一部の家では、救急箱も用意され、通学中にけがをした子どもたちの応急手当

をしてくれるところもあります。

子を持つ親であれば、我が子は当然、子どもの安全は常に気になるものです。「変な人に襲われないか」「交通事故に遭いはしないか」など、学校へ行くとき、学校から帰るとき、遊んでいるとき、いつも不安に思っています。しかし、一日中子どものそばで見守ってあげることができません。

「地域の子どもは地域で守る」という考えに立って、それぞれが家にいながら、仕事をしながら、可能な範囲で、そのとき、その場所にいる子どもたちをそっと見守ってあげるといふ活動が、「子どもを守る110番の家」です。行方市には、多くの110番の家が設置され、登下校中における不審者情報の報告はほとんどありません。「地域全体で子どもたちを守る」という姿勢が、犯罪抑止力にもつながっています。

子どもを守る 110番の家



茨城県警察本部

interview インタビュー



橘川商店 店主 橘川捷一郎さん

玉造小学校から依頼を受けたのは10年以上前だったと記憶しています。これまで、不審者から逃げるために駆け込んできたという事例はありませんが、自転車で転んでけがをした児童生徒の応急処置をしたことは、かなりあります。玉造中学校から私の店までの坂を自転車で乗って下りてくる生徒がけがをします。最近では、マナーよく通学していると思います。

子ども110番の家は、子どもの安全を守るということにおいて良い制度ですので、これからも協力していきたいと思っています。

interview インタビュー



民生委員児童委員 須貝権則さん

3年前に玉造西小学校からお話を伺い、小学生の登下校と一緒に歩いてみようと思いい、見守り隊へ参加しました。

地元の児童は、雨の日も風の日も登校班を作って登校していますので、学校があるときは、毎日一緒に歩いています。

以前、ある児童が、「須貝さんいつもありがとう」と書かれた写真入りのはがきを持ってきてくれました。とてもうれしくて目頭が熱くなりました。

来年4月に玉造統合小学校が開校し、西小学校の児童たちはスクールバスで通うことになると思います。校長先生からは、停留所までの見回りのほか、スクールバスの乗降時や車中の安全確保について協力依頼がありました。引き続き協力していきたいと思っています。

interview インタビュー



保護者 永作千寿子さん

私の子どもが通う小学校の地区には登校班がないので、毎朝、お友達5人で歩いて登校をしています。

下校の時も国道に出るからは車の通りも激しく、あまりお店もなく人通りもないので家に着くまでは心配です。

もし、不審者が出た場合、防犯ブザーだけで対処できるのか不安に思っています。



interview インタビュー



行方警察署生活安全課長 古谷悦男さん

平成24年度における茨城県内の不審者事案は921件発生し、そのうち、声かけや露出、つきまとい事案は295件と、全体の32%を占めています。

行方警察署管内における声かけ事案は、潮来市が2件、行方市が1件発生しました。

集団登校をしている児童が、忘れ物をとりに自宅へ帰ったりするときが狙われやすいという傾向があります。

警察としましては、警察署と学校長などから構成される学校警察連絡協議会を夏休み前に開催し、児童・生徒を犯罪から守る取り組みを強化



しています。

「イカのおすし」という言葉を聞いたことがあると思います。防犯教室で小学生に教えているのですが、「行かない」「乗らない」「大声で叫ぶ」「すぐ逃げる」「知らせる」。これらの言葉は、知らない人に声をかけられ誘われそうになったり、連れていかれそうになったときに、とっさに行動を起こすための合い言葉です。皆さんもぜひ覚えていただきたいと思います。

「イカのおすし」という言葉を聞いたことがあると思います。防犯教室で小学生に教えているのですが、「行かない」「乗らない」「大声で叫ぶ」「すぐ逃げる」「知らせる」。これらの言葉は、知らない人に声をかけられ誘われそうになったり、連れていかれそうになったときに、とっさに行動を起こすための合い言葉です。皆さんもぜひ覚えていただきたいと思います。

子どもの登下校時の安全を守る

児童・生徒の登下校時における安全確保のため、日々、学校と保護者、地域そして行方警察署が連携して取り組んでいます。

平成17年12月に栃木県日光市（旧今市市）で発生した女子児童殺人・死体遺棄事件。小学校から帰宅途中の被害者が、友達と別れた後行方不明となり、翌日に、常陸大宮市の山林内において遺体で発見され、依然として犯人は捕まっていません。

行方市においては、幸いにして凶悪な事件は起きておりませんが、登下校時に不安を感じている保護者がいることも事実です。

今後、小学校の統合がすすみ、スクールバスを利用する児童が増えると思われれます。しかし、徒歩通学の子どもや停留所までの移動、バスの乗降時などは、安全確保のため、引き続き地域の皆さんの協力が不可欠となります。

少子高齢化の中、将来の行方市を担う子どもたちは宝です。既に設置されている自主防犯組織を堅持するとともに、地域の見守り隊活動へのご理解ご協力をお願いいたします。

ぼうはんのおやくそく **イカのおすし**

イカ

い
行かない



知らない ひと について 行かない

の

の
乗らない



知らない ひとの くるまに 乗らない

お

おおごえ
大声でさけぶ



たす 「助けて!!」と おお
こえ 声を出したり、 大きな
ぼうはんブザーを
鳴らす

す

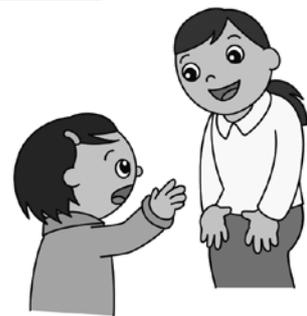
すぐ にげる



こわかったら
おとな いる ほうに
すぐ にげる

し

し
知らせる



どんな ひとが
なに 何を したか、
いえ 家の ひとに し
知らせる

ぼうはんきょうかい・けいさつ

茨城県警察本部ホームページより引用